

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和3年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
群馬がん治療技術地域活性化総合特区 (群馬県)	4	4.5 <u>進捗度</u> ・重粒子線治療技術の難治がんへの応用 67% ・医療・ヘルスケア産業振興 76% ・医療系人材の育成 200% ・事業化人材の育成 159%	3.5 <u>規制の特例等</u> ・高精度重粒子線がん治療技術開発事業 <u>財政支援等</u> ・戦略的基盤技術高度化支援事業 ・総合特区支援利子補給金 <u>地域独自の取組</u> ・医療機器・介護機器等事業化支援補助金 ・医療・ヘルスケア関連事業化支援補助金 等	4	・重粒子線治療を中核とし、技術開発から人材育成まで幅広く独自の展開が見られる点が評価できる。 医療コーディネーターの活用で成果を挙げている点が評価できる。 ・医療分野の研究開発に関する事業化支援の参加者数が増加し、医療機器製造登録事業所数等が増えていることについては評価できる。 ・産業振興のアウトプット指標は商談、共同研究、試作品開発、上市と開発のすべてのフェーズを総合した指標となっており、それぞれのフェーズごとの結果も報告していただきたい。 ・治療症例数以外の主たる指標において、大幅な達成状況にある点を評価したい。地域独自の財政支援も大幅に増加させており、達成の下支えとみることもできる。 ・最も重要と考えられる重粒子線の治療開発における進捗不良に大きな懸念を抱く。コロナ感染症が主たる理由に掲げられているが、大学病院などでは、コロナ感染症への受け入れと並行して、がん診療などの重要な疾病への対応は一定以上維持されているはずである。その中で実績2例というのは、研究開発計画の根本的見直しが必要と考える。 ・重粒子線治療実施症例数(数値目標(1))に関しては、その後の計画を考えると、令和4年度の登録終了は必須である。そのための対策に期待したい。 ・マッチング・医療関連製品サービス開発件数(数値目標(2)－②)では、成立した商談の数、共同研究の数、試作品開発件数、上市件数、競争的資金の獲得件数がカウントされているが、それぞれの難易度は同じでない。合計の件数は高い達成度であることから、その内訳の情報共有にも期待したい。